

甲 第 号

五十川雅裕 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	鶴屋 和彦
論文審査担当者	委員	教授	彦惣 俊吾
	委員(指導教員)	教授	笠原 正登

### 主論文

Comparison of canagliflozin and teneligliptin on energy intake and body weight in Japanese patients with Type 2 diabetes: A subanalysis of the CANTABILE study

日本人2型糖尿病患者におけるエネルギー摂取量と体重に対するカナグリフロジンとテネリグリプチンの比較：CANTABILE試験のサブ解析

Masahiro Isogawa, Hisashi Makino, Cheol Son, Kunihiro Nishimura, Takumi Hirata, Shu Kasama, Yoshihiro Miyamoto, Michio Noguchi, Masato Kasahara, Kiminori Hosoda.

BMC Endocr Disord. 2024 Aug 19;24(1):153.

doi:10.1186/s12902-024-01690-6

## 論文審査の要旨

申請者は、2型糖尿病患者145例を2群に分け、SGLT2阻害薬とDPP4阻害薬をそれぞれ投与し、エネルギー摂取量や糖尿病関連指標に対する効果の違いを検討するために行われた多施設共同前向き臨床研究であるCANTABILE試験のサブ解析を行った。24週の治療期間後、SGLT2阻害薬群ではDPP4阻害薬群と比較して、エネルギー摂取量が増加しても体重が減少したこと、インスリン抵抗性を改善すること、肝機能マーカーを有意に減少させることなどを明らかにした。特に、SGLT2阻害薬群では、Fib4 index  $\geq 1.3$  において肝線維化の改善効果が高い傾向が認められた。これらの結果から、食事療法を遵守することが困難な2型糖尿病患者の治療にSGLT2阻害薬が役立つ可能性があることに加えて、SGLT2阻害薬の投与により非アルコール性脂肪肝疾患（NAFLD）の肝線維化の進行を抑制できる可能性を示唆した。

公聴会では、体重が減少しているのにエネルギー摂取量が増加していること、ケトン体上昇とHOMA-IR低下との関連などの質問に対して糖代謝から脂質代謝に変わることによってエネルギー摂取量の増加が考えられること、インスリン抵抗性は改善してインスリンは下がっても、グルカゴンは上昇し、脂肪酸代謝も上昇することでケトン体が上昇したと考えられることなど、的確に答えていた。

以上より、主論文の内容、公聴会での発表・質疑応答と併せて、審査委員すべてが適と判断し、医学博士の学位に値すると考える。

## 参 考 論 文

な し

以上、主論文に報告された研究成績は、臨床実証医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和6年12月10日

学位審査委員長

腎臓病態制御医学

教授 鶴屋 和彦

学位審査委員

循環器病態制御医学

教授 彦惣 俊吾

学位審査委員(指導教員)

臨床実証医学

教授 笠原 正登